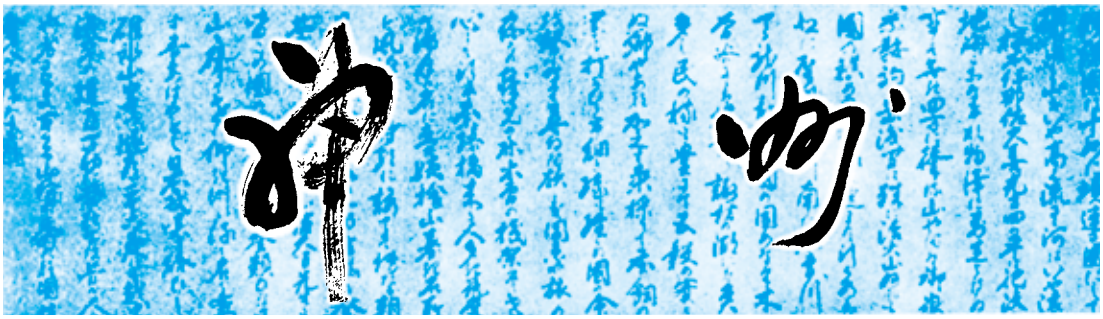


長 野 県 神 社 庁 報　第127号

平成30年８月１日発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
（長野市箱清水1-6-1　電話026-232-3355　FAX026-233-2720）

奉祝　天皇陛下御即位30年

写真提供　青木實氏

佐久夏の御静養　平成29年8月26日　軽井沢駅にて

特集　明治維新150年

目次

目次・日誌抄　2
特集　明治維新一五〇年
「明治維新と信濃国の神主」　4
「象山神社創建八〇年」　8
氏子総代研修会　11
各種研修会
教養研修会　12
浦安の舞研修会
第二十三回子供参宮団　13
新任神職の横顔　16
御造営フォトニュース・本庁表彰・寄附者顕彰・辞令　17
平成三十年度神社庁歳入歳出予算書　20
平成三十年度災害救助慰藉予算書　21
暑中見舞い
明治維新関連書籍　24

日誌抄

（平成二十九年十二月～平成三十年六月）

十二月

一日　月次祭
二日　神宮大麻頒布研修会
於　長野支部　祝神社

五～六日　第六十三回伊勢神宮新穀感謝祭
八日　神社庁新庁舎建設特別委員会
土地選定・募財合同委員会
八日　理事支部長合同会議
二一日　支会長会

一月

二日　月次祭
十八日　神社庁新庁舎建設特別委員会
正副委員長会
十八日　新年初会議
二二～二三日　東海五県神社庁事務研修会
於　静岡県
二六日　教化部合同委員会
二九日　辞令伝達式

二九日　別表特別神社宮司会

二月

一日　月次祭
五～八日　長野県遺族会
沖縄「信濃の塔」慰霊祭戦跡巡拝
奉仕　下高井支部
七日　神社庁新庁舎建設土地選定委員会
十五日　理事会
十七日　南信地区氏子総代研修会
於　ライフプラザマリオ

十七日　中信地区氏子総代研修会
於　四柱神社参集殿

十八日　東信地区氏子総代研修会
於　小諸グランドキャッスルホテル

十八日　北信地区氏子総代研修会
於　長野県神社庁
十八～十九日　浦安の舞研修会　於　深志神社
十九日　神政連長野県本部役員会
十九日　県民の会役員会
二三日　教養研修会

二五～二八日　神政連長野県本部主催
海外視察研修旅行
「台湾旧神社故地　八田與一記念館
烏山頭ダムを巡る」

三月

一日　月次祭
二日　神宮大麻暦頒修奉告祭

四日　神宮大宮司御招宴
五日　神宮大麻暦頒布終了祭
五日　神宮大麻暦頒布春季推進会議
　於　神宮会館
五～六日
　第四回神宮大麻都市頒布向上
　計画研修会　於　神宮会館
七日　第九十二回神社庁定例協議員会
九日　教化部青少年対策推進委員会
十四～十五日
　第四回神社庁職員実務研修会
　於　神社本庁
十九日　神政連長野県本部代議員会
　於　四柱神社
十九日　時局講演会　於　四柱神社
十九日　教化部教化委員会　於　深志神社
二二日　神社庁長懇話会
二二日　全国神社庁長懇談会
二三日　神社庁長会
二三日　教化部教化委員会教養研修会
　下見（群馬県）
二六日　皇太子殿下御一家御奉迎
　於　長野駅

二六～二七日
　第二十三回子供参宮旅行

二九日　事務担当者会
二九日　神職総会

二九日　県内東海五県評議員会
三十日　皇太子殿下御一家御奉送
　於　長野駅
三十～三一日
　東海五県神社庁教化神政連合同会議
　於　ホテルクラウンパレス浜松

四月

一日　月次祭
九日　美しい日本の憲法をつくる
　国民の会
　全国実務者会議
十一日　長野県神道青年会創立七十周年
　奉告祭
　並びに平成三十年度定例総会
　於　神社庁
十二日　辞令伝達式

十二日　理事会
十二日　徳武公仕送別会
二十日　三役会
二三～二四日
　東海五県神社庁長参事会
　於　熱海後楽園ホテル
二五日　庁報編集委員会

五月

一日　月次祭
九日　天皇陛下御即位三十年記念
　東海五県神社庁評議員会
　於　岐阜グランドホテル
十日　天皇陛下御即位三十年記念
　東海五県神社庁連合総会
　於　長良川国際会議場

十五日　神宮大麻暦頒布常任委員会
十八日　教化部青少年対策推進委員会
二一日　庁報編集委員会

二三日　本庁表彰式　於　明治記念館

二四～二五日
　神社本庁定例評議員会
二五日　班幣式
二五日　神社庁長会
二五日　神道文化会設立七十周年記念式典
　並祝賀会
　於　東京大神宮マツヤサロン

六月

一日　月次祭
四～五日
　教養研修会
　於　東信地区・群馬県

六～七日
　神宮参与同評議員会・
　伊勢神宮崇敬会
　代議員会　於　神宮会館

十日　第七回神社検定
十一日　長野県神道青年会創立七十周年
　記念式典並講演会・祝賀会
　於　アルピコプラザホテル
十二日　神政連本部長会・事務局長連絡会
　於　神社本庁
十二日　神政連国会議員懇談会総会・
　合同懇談会
　於　ホテルニューオータニ
十三日　神政連中央委員会
　於　神社本庁
十三～十四日
　神社庁事務担当者会
　於　神社本庁
十九～二三日
　東海地区中堅神職研修会
　当番　岐阜県
二十日　中信地区四支部連絡協議会
　於　穂高ビューホテル
二一日　教化部合同委員会
二五日　庁報編集委員会
二七日　辞令伝達式

特集「明治維新一五〇年」

明治維新と信濃国の神主

深志神社禰宜　牟禮　仁

慶応四年（一八六八）九月八日、明治と改元されてから今年は百五十年となる。この明治維新前後の主な歴史事項を年次順に列挙する。慶応三年十月十四日、徳川慶喜が大政を奉還し、十二月九日に「王政復古の大号令」が出る。翌四年一月三日、鳥羽伏見の戦い（戊申戦争）が始まり、大阪城にいた慶喜は六日に江戸へ退く。二月、新政府軍の東征が始まる。三月十四日「五箇条の御誓文」が発せられる。同月二十一日、明治天皇は大阪へ親征行幸。四月十一日、江戸城開城。以降、新政府軍と東北諸藩との戦いが続く。七月十七日江戸を東京と改め、八月二十七日京都で即位式が行われ、九月八日明治と改元された。

明治天皇践祚　聖徳記念絵画館所有

この明治維新に際して全国の神主の活動・事績はどうであったのか。これについて知られていることに神祇道本所吉田家配下の神主達により結成された草莽諸隊の活動がある。わけても顕著なのは遠江・駿河・伊豆国（現静岡県）での事蹟である。勤皇を志す神主が中心となって慶応四年二月以降、遠州の報国隊、駿州の赤心隊、豆州の伊吹隊などの勤皇義団を結成し、国事に尽した。その活動は、静岡県神社庁編『明治維新　静岡県勤皇義団事歴』（静岡県神社庁・昭和四十八年）に詳しい。それらの義団は、徳川慶喜の追討に向かった官軍の警護などを担い、また東北戦争に従軍したのち明治二年六月二十九日、東京招魂社（のちの靖國神社）の創立祭典に奉仕し、のち同社社司や皇典講究所の開設に携わったりした神主がいた。

○維新時に全国の神主達が上京し、神威隊を結成する

では信濃国の神主と維新時における関りはどうであったか。これについての史実の一端が、次の論説等によって知られる。以下、それらに拠って概要を紹介する。

①宮間純一「戊申内乱と吉田家本所―神威隊を中心に―」（『日本歴史』七三五・平成二十一年、『戊申内乱期の

社会』思文閣出版・平成二十七年）・②中島丈晴「武水別松田家文書所収『内侍所固衛日記』について―神威隊に関する新史料―」（『古文書研究』第八十三号・平成二十九年）・③佐藤眞人「日吉社の神仏分離序論」（『國學院大學日本文化研究所紀要』第五十九輯・昭和六十二年）

慶応四年一月三日に戊辰戦争の開始となる鳥羽伏見の戦いが起ると、一月八日以降、慶喜追討令を受けて神祇道本所吉田殿大取締役所から「夫々恭順の道を以て精々勤王盡力これ有るべき候事。但し有志の向は早々最寄の組合申合せ、相応に隊長を定め同道上京し、勤王これ有るべき候事」との触れを全国の配下の神主に廻達し、有志の神主たちが申し合わせて一緒に上京して、勤王に務めるように呼びかけた（「勤王勧誘状」という）。

鳥羽伏見の戦い　聖徳記念絵画館所有

これに応じて早くも二月初旬から下旬までに、各地から二百人以上の神主が上京してきて、「神威隊」が結成された。それらの神主達の出身は、近江・摂津・河内・但馬などの京都の近隣諸国が多く、また信濃国からは二十九名余が参加した。

そして吉田家当主・神祇事務局補良義の新政府への働きかけで、神威隊は二月二日京都御所内の内侍所（賢所、神鏡を安置）の警衛を、それまで任にあった水口藩兵と共同で当たることが許可され、五十人ずつ昼夜交代で、軍装し、「神威隊・氏名」を記した袖印を付けて任務にあたった。その具体的な警衛などの状況は、武水別神社の神主・松田家家来たちが参加した際の日記により知られる（前掲②論説）。なお、そこには「主上内侍所江出御…、主上御手ずから御ふり相成

内侍所（現　橿原神宮本殿）
写真提供／橿原神宮

され候御鈴之音聞いる」という貴重な記述もある。

そして、その最中の三月十三日、王政復古をうけて「神武創業ノ始ニ基ヅ」いて、諸事御一新、祭政一致の制に復し、神祇官を再興して天皇親らその実を示し給うこと指し示した「神祇官再興の布告」が出され、翌十四日には、御所紫宸殿に設けられた祭壇の前で、「天神地祇御誓祭」が執り行われ、明治天皇が公卿・諸侯以下百官を率いて天神地祇に誓う形で、新政府の基本方針である「五箇条の御誓文」が公布された。

天神地祇御誓祭　聖徳記念絵画館所有

神威隊はその後、三月二十一日に明治天皇が大阪へ、内侍所奉斎の神器と共に親征行幸された際、第一御羽車に八人、第二御羽車に七人づつあわせ三十人が左右を警衛し、そこには信濃国神主から松田大内蔵など六名も供奉した。これによって二十五日には内侍所警衛の任を解かれ、帰国が命じられた。

なお当時の新政府の神祇関係の組織は、一月十七日に神祇事務科が置かれ、二月三日に神祇事務局と改められ、さらに閏四月二十一日に神祇官が設置された。これらに伴い三月十三日、神祇道管領吉田家による諸家執奏配下の儀が停止された。

○信濃国の神主のその後の動向

神威隊のうち信濃国の神主のその後の動向については、明治維新に際して全国的な廃仏毀釈の発端で激しい事例として著名な、近江国・日吉社（山王権現、比叡山延暦寺鎮守社）で実行された廃仏毀釈に従事したことが知られる。

明治天皇行幸　聖徳記念絵画館所有

慶応四年三月二十八日、神仏判然令が出されると翌二十九日、日吉権現祠官樹下茂国（神祇事務局権判事）を主に、神祇事務局に社頭神体改め仏具除却取調の伺いをたて、四日後の四月一日、京都の吉田神社をはじめ神威隊員四十七名を引率して日吉社に到着し、社司・宮仕二十名、坂本村の五十余名、計百二十余名が、僧形の神体や

本地仏・鰐口・鐘・経巻等の多数の仏器・仏具を撤去し、境内の林中三ヶ所に積み上げて焼却した。

そして、この参加した神威隊員の名前が当時の神社記録に残されており、そのなかに信州の神主等二十九名が記されている。それらの人物すべてを次に掲げる。おそらくこの時に上京した信州の神主等の全員かとみられる。

河上筑前守〔信州小県郡上田常田庄大宮神主〕・宮川雅楽亮〔同国筑摩郡麻績神明宮神主〕・宮下伯耆〔同上〕・宮川縫殿亮〔同上〕・寺沢近江〔同上〕・関口隼人〔同国小県郡山口村八幡宮神主〕・石和志摩〔同郡海野宿海野神社神主〕・柳原豊後〔同宿新海宮神主〕・押森大和〔同郡上原村神明宮神主〕・勝山若狭〔同国高井郡高井村高杜神社神主〕・目須田石見守〔同郡安田村木島神社神主〕・庄田河内〔同国更級郡小松村神明宮神主〕・宮平日向〔同国水内郡久保寺村日吉山王神主〕・藤森伊予〔同国諏方郡田沢村稲荷神主〕・鳥山播磨守〔同国伊那郡三日町八幡宮神主〕・藤井薩摩〔同郡物見村天満宮神主〕・牟礼大膳〔同国筑摩郡松本城下深志神社神主〕・浅沢内膳〔同国三野村浅田神社神主〕・福富因幡〔信濃国水内郡小川村小川神社神主〕・吉田修吾〔同国埴科郡清野離山神社神主〕・児玉掃部〔同国更級郡稲荷山治田神社神主〕・松田大内蔵〔同郡川中島武水別神社神主〕・松田暉治郎〔大内蔵舎弟〕・宮川伊勢大夫〔同社下神主〕・坪井荒太郎・同多門・高嶋要作・武井音兵衛〔松田家来〕・内山帯向〔同国埴科郡松代祝神社神主〕

それらの地域は、高井郡（二名）・水内郡（二名）・埴科郡（二名）・更級郡（九名）・小県郡（五名）・筑摩郡（五名）・諏方郡（一名）・伊那郡（二名）・三野村（一名）で東北信地域が多い。そこには、現在も続く社家の祖の名前が多く見られる。また、「明治六年以前神主履歴調」（『長野県神社百年誌』長野県神社庁・昭和三十九年）には神威隊参加の経歴を記す八名がいる。なお、ここに出てくる牟禮大膳は筆者の五代前の祖で、同年四月十六日六十三歳にて京都で死去し、墓は東山・吉田神社東方近くの神楽岡墓地に今も祀り、一昨年墓前で百五十年祭を行った。

以上のように、明治維新当初の二、三ヶ月という短い期間ではあったが、二十九名余の信濃国神主が上京して、諸国からの二百人余の志士の神主たちからなる神威隊員として京都御所の内侍所警衛に当たり、神祇官再興と五箇条の御誓文の公布に際会し、また日吉社の廃仏毀釈に従事するなど近代神道史上の大変革期に身を挺した。それは「勤王の志し」によるものであった。

いま明治維新百五十年に際会して、当時の信濃国神主の先人に学び、歩むべき一指針がここにある。

京都御所　出典：宮内庁ホームページ

象山神社創建八〇年

長野支部　齋藤　英之

象山神社創建八〇年記念祭

今年、平成三十年は明治維新を迎えて百五十年になります。わが郷土が生み出した佐久間象山先生は明治維新に大きな影響を与えた偉人として伝えられています。

四月十一日に象山神社創建八十年記念祭が祈年祭に併せて、瀧澤基宮司はじめ神職により執り行われました。この日までに社殿の金具は創建時そのままに磨き上げられました。また松代ロイヤルホテルで創建八十年祝賀会が行われ、この席おいて崇敬者の株式会社ＡＯＫＩホールディングス会長青木擴憲氏・副会長寶久氏より、明治維新という近代国家建設に貢献した先人たちの遺徳を讃え、将来の日本のために、象山先生の意を汲んで未来に挑戦する若者が育っていくように、八代藩主幸貫公・象山先生並びに象山先生門下生の銅像が、大祭に向けて建立されることが発表されました。計画では八代真田幸貫公と佐久間象山先生の銅像と門下生の勝海舟、吉田松陰、小林虎三郎、坂本龍馬、橋本佐内の胸像が境内に建立されます。

先生が京都三条橋の近く木屋町筋で暗殺されたのは元治元年（一八六四）で、明治維新の四年前でした。維新の先覚者と呼ばれる佐久間象山先生はどのような方だったのでしょうか。

藩主幸貫公・象山先生の銅像と門弟たちの胸像　完成予想CG図

象山先生は文化八年（一八一一）二月二十八日に松代藩士の家に生まれました。頭脳明晰にて三歳で文字を読めたといいます。七歳より鎌原桐山に漢詩の教えを受け、儒学・算術・水術の習得に熱心でした。学問を究め自らの才能に自信を持つ先生は、松代藩八代藩主真田幸貫公に見出され、十七歳で幸貫公の世継ぎ幸良の教育掛となります。二十歳の時に漢文百編を提出し学業勉励であるとして銀三枚を下賜されました。二十三歳で江戸に遊学し、儒学の第一人者、佐藤一斎に学びます。ここでも頭角を現し、備中聖人と称えられる山田方谷とならび「佐門の二傑」と称されました。帰郷したのちに江戸にもどり儒学の私塾「象山書院」を開きます。

明治維新の先覚者
佐久間象山先生

その頃の日本を取り巻く環境は、西洋列強によるアジア支配が増大し日本の沿岸には列強諸国の船がたびたび現れ、幕府に通商・開国を求める圧力が日増しに強くなっていました。その中で清国はアヘン戦争で英国に敗北します（一八四二年）。このことは国内に大きな衝撃を与えました。このような混乱の時期に、開明的で英邁のきこえある藩主幸貫公は、国政を動かす老中と

外交を担当する海防掛を兼任することになり、象山先生はその顧問に取り立てられました。藩主の命により先生は海外事情や西洋学問の研究を行うようになりました。オランダ語を二か月でマスターしたといいます。その中で「海防八策」を提案し、海防のみならず国力を富ますことを提案します。この提案はその後に、幕末から明治にかけてその通りに門弟らが実現していきます。ペリー来航の十年も前にこのような見識があったことは、いかに並外れた先見性を持っていたかがわかります。

西洋砲術を伊豆代官の江川太郎左衛門（英龍）から学び、先生は西洋兵学を入り口に西洋学問の第一人者となり、日本初の指示電信機による電信を行ったほか、ガラスの製造や地震予知器の開発まで成功しました。嘉永四年（一八五一）に江戸木挽町に「五月塾」を開き、勝海舟、吉田松陰、小林虎三郎、河井継之助、橋本左内、岡見清熙、加藤弘之、山本覚馬、坂本龍馬ら俊才が続々と入門しています。他にも多数の日本を担う人材を輩出し、その影響は今日の日本の姿にまで及ぶといって過言ではありません。

嘉永六年（一八五三）にペリーが浦賀に来航した時は藩の軍議役として浦賀の地を訪れ、吉田松陰と一緒に妻の兄勝海舟からもらった望遠鏡で観察しました。この報告は江戸幕府老中阿部正弘に『急務十条』として奏上されました。そして下田開港の幕府に対し横浜開港を主張し、横浜港が開かれることになりました。このことは、後に幕末の志士たちにより徳川幕府が倒され明治の世が到来するきっかけとなります。嘉永七年（一八五四）に再びペリーが来航すると将軍の代理にも頭を下げなかったペリーが、日本人で唯一思わず象山先生に会釈をしたというエピソードがあります。身長は五尺七、八寸（約一七三から一七六センチ）で当時の日本人の中では長身、幼少の頃にテッポウ（松代における梟の方言）とあだ名を付けられた顔は彫が深く二重の眼光から発する気に圧倒されたとも、西洋人と見間違えたとも言います。その時に門弟の吉田松陰がペリーの艦隊で密航を企て失敗するという事件を起こしました。この事件に連座し、伝馬町牢屋敷に入獄する羽目となり、更にその後文久二年（一八六二）まで、松代での蟄居を余儀なくされることになりました。

「高義亭」この館の二階で訪れた門弟と会見した。

松代では現在象山神社に移築されている高義亭に居を構え、高杉晋作・久坂玄瑞、山形半蔵・中岡慎太郎・石黒忠悳らが面会に訪れ、時世について激論し、和魂洋才の学識に感動して去ったといいます。

その後、幕府の命令により上洛。当時上洛していた徳川慶喜に公武合体と開国進取の国是を説くことになります。これにより京都に潜伏していた尊王攘夷派に目をつけられます。ひと月前、攘夷派の志士たちは池田屋で新撰組に襲撃され多数が命を落とし、復讐に燃える彼らで京の街は殺気立った雰囲気に包まれていました。元治元年（一八六四）七月十一日、幕末四大人斬りのひとり河上彦斎らの手により暗殺されました。享年五十四歳。ちなみに彦斎は先生のあまりの来歴に慄然としてこの後人斬りをやめたといいます。象山先生の功績は黎明日本の大師表として長く語られることになりました。

象山神社の創建

昭和十三年（一九三八）十一月三日明治節に真田幸世男爵を初代社司として総桧材桃山式流造の雄大な本殿を有する象山神社は建立されました。鎮座地は生誕した象山邸の隣接地です。祭典には五千人もの人が

集まり、二週間にわたる催し物が城下町松城で催されました。

昭和十三年十一月三日の鎮座祭を伝える信濃毎日新聞の記事によると、門下生で明治の元検事総長、貴族院議員であった渡辺驥（すむ）（天保七年生、明治二十九年没）、松代出身の法学者横田秀雄の実弟、元鉄道大臣、貴族院議員の小松謙二郎（文久三年生、昭和七年没）が、神社創建に奔走したがその計画は蹉跌したとあります。記事はお二人を続けて書いてあるので混同してしまいますが、このお二人は年代が違うことから、明治二十二年の大日本帝国憲法発布の際、正四位を追贈されたことで顕彰の機運が高まった時機、大正五年に象山会総会において神社建立を決定し、昭和六年に内務省から認可を受けながら経済不況の真中の昭和八年に建立期限延期願を提出した時機のことを指す記事と思われます。いろいろな困難な時期を経ての神社創建だったのです。

その後、関係者の尽力により象山先生が幕末の志士たちと国家の時勢を論じたという高義亭、京都から移築した茶室・煙雨亭、象山宅跡と生誕地の碑、生誕二百年を記念して騎馬のブロンズ像などが建立されました。また、二十二年より佐久間象山塾のセミナーを開催し、全国より象山先生を慕う識者を招き講演会が開かれています。

象山神社

象山揮毫の大幟

長野市には象山先生揮毫の幟があります。

長野市南俣鎮座　南俣神社

象山先生揮毫の
南俣神社の五反幟

「承祀仰馴徳（まつりをうけたまわりてじんとくをあおぎ）
恭祈膺閑休（いのりをうやうやしくしてこうきゅうをむねとす）
横艾掩茂夏日 象山平啓」
（意訳）：祭をよく行って、馴れ親しむ神徳を仰ぎ、うやうやしくお祈りをして、心を大きく安めることを旨とする。

「横艾（おうがい）」は壬、「掩茂（えんも）」は戌で、壬戌は文久二年（１８６２）です。象山先生は安政元年（１８５４）吉田松陰の海外密航失敗事件に連座して国元に蟄居を命ぜられ、文久二年十二月に赦免されました。この幟は赦免直前に書かれたものです。この幟は座敷牢のような所で書いてもらったと地元では伝えています。

長野市若槻東条鎮座　蚊里田八幡宮

象山先生揮毫の
蚊里田八幡宮の七反幟

「威稜扶宇宙（いりょううちゅうをたすけ）
恩眷煦生霊（おんけんせいれいをくす）
象山平啓子明書」
（意訳）：八幡大神の御威光で宇宙が安定している　その恵みが生物の上に行き亘っている

嘉永七年（一八五四）の揮毫。現在は社宝として筆代わりに使用した箒と共に大切に保管されています。

氏子総代研修会

●中今（なかいま）を生きる
～日本の国柄を見据えて～

安倍内閣（第二次・三次）で女性活躍担当大臣などを勤めた有村治子先生を講師に迎え、去る二月十七・十八日に氏子総代研修会を県内四地区で開催した。

「中今を生きる～日本の国柄を見据えて～」を主題に、戦後教育の中で疎かにされてきた祖国を想う心や国民性についてお話し頂いた。

講演の中では、ＧＨＱ（連合国軍総司令部）占領下の「指導」により消えた「蛍の光」の三番・四番を参加者と心を一つに合唱する場面などあり、先生の熱いお話に聞き入り、涙を浮かべる方の姿も多かった。

（講演要旨）

現在の価値観だけで当時の歴史を評価してはいけない。江戸時代、飢饉により母親が産んだばかりの嬰児の首を絞めている絵が残されている。今の価値観で言えば新生児に対する虐待であり殺人です。

しかし、全く食べ物がない状況で我が子に手を掛けざるを得ない、その時の母親の気持ちは現在の私たちの価値観では判断出来ない「自分が同じような状況に置かれたらどうしただろうか？」と常に考え、時代背景を辿っていかなければ歴史に対して不遜だと思う。

歴史は勝者の理論が語られることが多い。「蛍の光」は戦後、二番までしか歌われなくなった。その歌詞が「平和国家の唱歌」に相応しくないとのＧＨＱの「指導」もあり歌われなくなったというが、当時の理由は現在でも相応しいだろうか。三番と四番を知って、初めてこの歌の意味が分かる。国を愛し、国を守るという思いが戦後教育の中で失われ、今日の領土問題への関心の薄さにつながっていると思う。

蛍の光

（三番）

筑紫の極み、陸の奥、海山遠く、隔つとも、
その真心は、隔て無く、一つに尽くせ、国の為。

（四番）

千島の奥も、沖縄も、八洲の内の、護りなり、
至らん国に、勲しく、努めよ我が兄、恙無く。

私たちが現在をどう生きるか、過去をどう直視するかによって、先人が命を紡いできた歴史に光を当てることもできれば、影を落とすこともできる。

今に生きる私たちは現在・未来だけではなく、過去の歴史の評価にも大きな影響力を持って生きており、命の中間走者として祖先より大切なバトンを託されていると思う。

第二十五回参議院議員通常選挙
比例代表区推薦候補者決定

神道政治連盟では、来年行われる第二十五回参議院議員普通選挙比例代表区の単独推薦候補として有村治子氏を推薦する事が決定し、先般神道政治連盟より推薦状が交付されました。

現在、有村氏は自民党憲法改正推進本部副本部長を務め、本連盟国会議員懇談会では副幹事長として、皇室尊厳護持運動や憲法改正運動等、神社界が要望している諸施策に格別の御理解御協力を頂いております。

斯界が悲願とする自主憲法制定に向け有村候補への御協力方お願い申し上げます。

神道政治連盟は応援してます

参議院議員
自由民主党比例代表（全国区）
ありむら治子

各種研修会報告

教養研修会　教化委員会

●神社でＡＢＣ～初歩の英会話～

「神社でＡＢＣ」を主題とする教養研修会が、二月二十二日神社庁で開催されました。

講師は昭和六十二年オーストリア生まれのウィルチコ・フローリアン先生。幼い頃より日本に興味があり、十四歳の時に家族旅行で初来日し、お土産には神棚を購入。兵役後、ウィーン大学で日本学を専攻。上野天満宮（名古屋市）に住み込み、後に國學院大學神道学専攻科卒業。金王八幡宮（渋谷区）権禰宜を経て、一昨年より三重県津市鎮座・野邊野神社（再来年・久居八幡宮と改称予定）禰宜として奉職中です。

三時間の講義は、さながら比較文化講座の様相を呈し、四十名の受講者は、我々以上に日本文化に造詣深い先生のお話に聞き入りました。

ウィルチコ・フローリアン先生

●キラリと光る神社めぐり

「キラリと光る神社めぐり」を主題に、六月五・六日に開催された教養研修会では、東信・群馬方面の神社を巡拝。

山名八幡宮（高崎市）と玉村八幡宮（玉村町）は、安産子育てに力を入れ、別けても山名八幡宮は、創意工夫でグッドデザイン賞を受賞し、神社を中心とした町作りが効果を現しつつあります。

また、上州一ノ宮・貫前神社（富岡市）や、上信の国境を跨ぐ熊野皇大神社（軽井沢町）なども参拝した。佐久市では神仏習合時代を色濃く残す新海三社神社、神話を伝える荒船山神社、日本五大稲荷と称される鼻面稲荷神社など、それぞれ特色ある神社を廻り、将来の神社の在り方を考察しました。

上州一之宮　貫前神社にて

新海三社神社にて古絵図を拝見

浦安の舞研修会　祭祀委員会

去る二月十八・十九日の二日間にわたり浦安の舞研修会を深志神社で開催しました。例祭に向け、指導者や御社頭の奉仕者など十四名の参加がありました。舞に限らず何事に関しても型が崩れて、我流が身に付き易いものなので、研修会に参加していただき自分自身を見直す機会にしてもらいました。

地域の稚児たちは例祭に向けて一生懸命稽古を積み、本番に臨みます。それを家族や地域の氏子が支えています。それ故に正しい型を身に付け、『浦安の舞』の意義も子供たちに伝えていただき、更に神社と地域の絆を深める一助となることを期待します。

これからも活発に研修会を開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

第二十三回子供参宮団報告
～多くの子供達との神宮参拝～

青少年対策推進委員会　委員長　等々力　良勝

本年三月二十六・二十七日にかけて第二十三回子供参宮団が行われた。参加者一四五名（子供一〇三名）バス四台での実施であり、参加人数は過去最多であった。

初日の早いバスは午前五時台に出発をしており、四台のバスが恵那峡サービスエリアに集合して結団式を行い二日間の行程と安全を確認した。

車中では自己紹介を行い、昨年神宮より出されたＤＶＤ「源郷」を鑑賞して遷宮や年間に齋行される祭典について勉強した。手水や参拝作法について説明し、手水作法は実際に柄杓を使って作法の確認を行った。神宮大麻についての説明を行う神職もおり若年層を対象に神宮大麻・神符の話を行う事も必要であるといった意見もあった。

バスは予定通り内宮へ到着した。今年は全国どこでも春の訪れが早く伊勢でも桜が五分咲きで暑い陽気であった。記念写真を撮り、内宮へ神宮職員の案内を頂き宇治橋を渡り、五十鈴川で手水を行い、神楽殿にて御神楽を奉納した。

殿内に入った時には少し私語も聞こえていたが、いざ祭典が始まると静かになった。その後緊張感みなぎる中で、御正宮御垣内参拝を行い授与所前で一旦解散し、それぞれおかげ横丁やおはらい町を散策して神宮会館に入った。

宇治橋前にて説明を受ける

夕食後は神宮職員北島大孝氏より講話を頂いた。第六十二回遷宮のＤＶＤを見た後に十五年後の遷宮に向けて昨年十月より御用材の切り始めが行われており「皆様の協力によって成り立っている遷宮である」とのお話があった。質疑応答も行われ子供たちから御垣内の参拝にて気付いた鳥居の根元の榊についてなど盛んに質問が出された。その後神宮参拝を終えた感想文を書いてもらった。この感想文は後日神宮崇敬会主催の作文コンクールに提出するが、昨年は大宮司賞など数名が受賞した。

神宮会館にて作文を書く

二日目は早朝六時十分に会館ロビーに集合して内宮参拝へ向かった。早い時間の集合であったが遅れる事なく出発して御正宮と荒祭宮を参拝した。

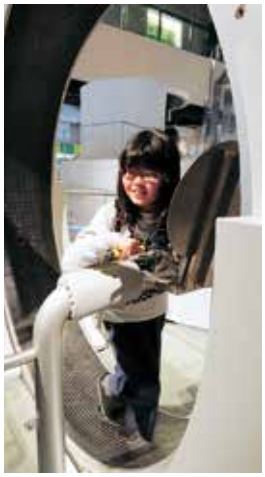
朝食後、会館を出発して外宮参拝や境内

五十鈴川にて手水を行う

の散策を行い、その後、見学場所の名古屋市科学館へ向かった。この科学館は世界記録に認定された内径三十五メートルのプラネタリウムがあり、上を見上げ早春の星座を見ながら宇宙について学び、その後は館内の各体験施設において時間が来るまで楽しんだ。

今回の子供参宮団は各支部神職の御協力により多くの参加者があり、天候にも恵まれ引率神職の協力により事故も無く終えることが出来た。バス中での学習内容や時間配分など反省は多々あったが、それらを元により良い参宮団になるよう努力していきたい。

今後も各支部、神職の皆様方に御協力をお願い致します。



名古屋市科学館にて体験学習

今回の子供参宮団に参加された氏子の方より感想文を頂戴しましたので掲載いたします。

伊勢神宮参拝

佐久市田口　小林洋一（62）

先月、子供参宮団の一員として伊勢の神宮へお参りしてきましたが、総じて大変良かった大人だけの参拝よりもかえって良かったかもしれない、というのが率直な感想です。

長野県神社庁主催ということで、御神楽奉納や御垣内参拝といった一般では立ち入れない所での大変貴重なお参りが出来た、というのは言うまでもありませんが、当初予期しない、普段考えない事柄をいくつか考えさせられました。

参拝もさることながら、食前食後に感謝の気持を表す短歌を詠うのが新鮮（初体験）で、いつの間にか子供の心になってしまいました。

西洋映画の一シーンに食前のお祈りが出てくる事がありますが、西洋の「食前の祈り」は日本の「いただきます」に相当するくらいの知識があったものの、単に動植物の命を頂く事以上の、万物への感謝を表現しているのかなと思いました。

そんな事もあってか、翌日の早朝参拝の帰路に再び、おかげ横丁を歩いてみると、江戸時代の面影を残す演出の影響だけでなく、太陽と大地の恵みや日々の平穏に感謝する精神が今に伝わっているかのような不思議な感覚が湧いてきました。早朝参拝が恐ろしいほど神々しいのとは別の、かなり人間臭い感覚ですが。

（ここからは更に飛躍した想像の世界）

太古の昔は、ちょっとした気候変動や小さな風水害でも餓死者が続出するような、今から考えると実に過酷な社会であったであろうことは想像に難くありませんが、もしかしたら現代人が考えているほど不幸ではなかったかもしれない、などと思う事があります。それどころか、今より幸福感を以て人々が生きていたのかもしれません。

お祭りにしろ、お神楽奉納にしろ、各種の伝統行事の多くは、神羅万象・八百万の神々に感謝の気持ちを捧げるものが多いように思えるが、多分過酷な時代に幸福感をもって生きる為に生まれてきたものに違いない、と思うようになりました。

当たり前と言えば当たり前、信仰とはそういう物だと言われそうですが、今回の参拝が無ければ普段は気にもしないことを、深く考えさせられる大変良い機会でした。

私にとっては（子供たちもそうかもしれませんが）、歴史的知識よりも神々しい感覚に浸る事が出来たという体験の方がはるかに貴重でした。

第十四回　神宮奉納
お伊勢まいり作文コンクール

去る三月十七日に「第十四回　神宮奉納　お伊勢まいり作文コンクール」の授賞式が神宮会館で行われ、今回長野県からは低学年の部の神宮大宮司賞に一年生の片山奏子（かなこ）さん、伊勢神宮崇敬会長賞に二年生の宮川木花（このは）さんの二名が表彰されました。

さらに高学年の部の佳作として六年生の松澤翠子さん、五年生の松倉愛奈さん、六年生の井出英恵さんの三名が表彰されました。

今回は紙幅の都合にて片山さんと宮川さんの作文を掲載いたします。

宮川木花さん　片山奏子さん

低学年の部　神宮大宮司賞

今日、伊勢神宮に行って…

一年　片山奏子

今日は、六時四十分にお家を出て七時ころにバスに乗りました。隣のよしかちゃんといっぱいお話しをしました。

伊勢神宮についてから、先ず写真を撮って宇治橋を渡って橋の向こう側につきました。いっぱいお参りとか、神様に捧げる踊りとかいっぱい分からないことやいっぱい知りました。

夜のお勉強会は「伊勢神宮にはお社が一二五社ある」って初めて聞きました。それから「神宮はお祭りを一五〇〇回お祭りをします」ってききました。年に五回は大きなお祭りをするって初めて聞きました。わたしは「すごいな」と思いました。

天照大神様は天皇陛下の御先祖様と初めて聞きました。お宮の御垣のところに榊があるって最初は不思議に思いながら話を聞いていました。

天照大神様の呼び方も違う呼び方があるって初めて聞きました。伊勢神宮にはいろいろいっぱい神様やお宮があるって、思っていたよりすごいなと思いました。また一緒にお母さんと行けるといいなと思いますがお母さんが仕事で休めないことがあったけど、お父さんのほうがもっといいと思いました。

伊勢神宮が好きになりました。また来年も行きたいです。

提供　㈶伊勢神宮崇敬会

低学年の部　伊勢神宮崇敬会長賞

無題

二年　宮川木花

長野から、三重県までバスで行きました。長かったけど、伊勢の神宮に行けるならそんなのへっちゃらです。伊勢の神宮には、しめ縄がありません。その訳は葉っぱがしめ縄の代わりだからです。

他にも、狛犬が無いなど、普通の神社に有るものがありませんでした。伊勢の神宮は、大きくてその中には一二五社もの別宮や、内宮や外宮が有るんだそうです。それを全部回れたらすごいなぁと思いました。

伊勢の神宮は天皇陛下の神社なんだそうです。天照大神は天皇陛下の御先祖様なんだそうです。また家族で行きたいです。

提供　㈶伊勢神宮崇敬会

編集委員会より　作文については一部ひらがなを漢字に直しております

新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔

傳田領輔　三十六歳
王日神社　権禰宜
下高井支部

神道は信仰であると同時に日本文化の礎である。

文化という言葉は、定義をするのが難しく、様々な要素を含むものと考えられるが、核心にあるのは様式美ではないか。すなわち、力士が土俵上で塩を散いたり四股を踏んだりする行為を省略すれば、競技は極めてスピーディに進行するが、まさかそのようなことを容認する人はほとんどいない。我々はそうした点にこそ、文化的要素を汲み取るからである。

これを見るに、文化性は、経済的時間的合理性と相反する面があるといえる。このことは肝に銘じておきたいところである。

宮澤幸也　二十五歳
諏訪大社　権禰宜
諏訪支部

この度、平成三十年四月一日付をもって諏訪大社権禰宜を拝命致しました。

諏訪大社にて三年間の出仕としての奉仕を経て学んできたことを生かし、日々神明奉仕に励み、精進して参りたいと思います。

まだまだ至らない点が多い未熟者でございますが、今後とも皆様方の御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

越取寛昭　四十二歳
南宮神社　宮司
木曽支部

この度、南宮神社他兼務二社の宮司を拝命致しました。此れまでは横浜の師岡熊野神社にて、権禰宜としてご奉仕しておりましたが、ご縁がありまして、社家ではありませんが、父の故郷の木曽町日義のお宮を、妻の禰宜とお護りすることになりました。

前任宮司退任後十余年の間、木曽支部預かりのお宮であったため、一から構築していく事も多々ありますが、諸先輩神職のお知恵をお借りし、総代を始め地元の氏子達と力を合わせて神明奉仕に励んで参ります。

どうぞ宜しくお願いいたします。

越取華子　四十歳
南宮神社　禰宜
木曽支部

この度、南宮神社禰宜を拝命致しました。

国学院大学で資格取得後二年ほど奉職ののちに結婚を機に退職して以来、主婦業に専念して参りましたが、夫の父祖の地である木曽町日義での御奉仕のお話を頂き、深いご神縁に導かれての事と畏み、慎んでお受けした次第です。お宮をお護りする責任はとても大きいですが、感謝の気持ちを忘れずに神明奉仕に励んで参ります。

なにぶん神職経験が浅い未熟者ですので、諸先輩神職の皆様、どうぞご指導ご鞭撻の程を宜しくお願いいたします。

水野　亮　二十八歳
水内鎮神社　禰宜
長野支部

この度、水内鎮神社禰宜を拝命致しました。昨年度までは県外の神社でご奉仕させていただいておりました。

数年ぶりに地元に戻り改めて、神職としてご奉仕させて頂きたいと思っております。

未熟もので至らぬことが多々あるかと思いますが、日々精進して参る所存でございますので何卒御指導御鞭撻のほど、宜しくお願い致します。

神原和希　二十五歳
大原社　宮司
上水内支部

この度、上水内郡信濃町鎮座の大原社の宮司を拝命致しました、神原和希と申します。

まだ若輩の身でありますが、亡き祖父の跡を継ぎ、奉仕させて頂く事となりました。約三十年の間、勤めて参りました祖父の跡を継ぐのは、大変恐縮でありますが、氏子の皆さんに暖かく迎えて頂きました。浅学非才の身でありますが、出来る事を一歩ずつ歩めればと思っております。ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

御造営フォトニュース

○平田神社（松本市平田鎮座）

宮司　大澤明三

本殿拝殿建替

建設金　約五千四百万円

当神社の御祭神は、嘉暦（かりゃく）四年（一三二九）に、諏訪大社より御分霊をいただき祭祀され、地域の安全繁栄を念じ氏子の心の拠所として崇敬される旧神饌幣帛料供進神社であります。

旧社殿は大正十二年に建替えられ、それ以来、老朽化による損傷も著しく、特に平成二十三年の地震による被害も加わり、建て替えは十年来の懸案となっておりました。

今回本殿及び拝殿をすべて建て替える事となり、平成二十九年五月より工事に入り九月六日例祭に合わせて厳粛の内に竣工奉告祭が行われ無事建て替え工事も終了しました。

○白髭神社（しらひげじんじゃ）（長野市鬼無里日影鎮座）

宮司　武井喜信

拝殿等保存修理

事業費　千六百万円

白髭神社拝殿、祝詞殿、神饌所の屋根は、昭和二十八年に亜鉛メッキ鋼板にて葺き替えられ、以後六十三年間風雨に耐えてきましたが、各部に錆が回り、谷部をはじめ、至る所において劣化が激しく現れてきました。

よって、一昨年建設委員会を結成。氏子の皆様のご尽力のもと、昨年十一月白髭神社拝殿等保存修理工事が無事に竣工いたしました。設計は日本伝統建築事務所により落雪時の破損を考慮し、耐久性能上の弱点を補完、施工は株式会社村上組により、丁寧な加工、慎重な取付を行っていただきました。また創建時の職人さんへの敬意を払い、解体した神饌所の部材を削り直し、新たな神饌所を作っていただきました。

今回の工事が短期間で無事に竣工したことは、氏子の皆様をはじめ、建設委員の皆様、設計・施工業者様のご協力の賜物と感謝しております。

竣工祝賀祭には、氏子中の女性凡そ四十人の手づくり料理のおもてなしもあり、神社がこれからのコミュニティーづくりと支え合いの拠点にも成りうる雰囲気を醸し出してくれました。

○葛山落合神社（長野市入山鎮座）

宮司　越志徳門

本殿屋根保存修理

事業経費　千三百五十七万円

重要文化財である本殿屋根（こけら葺）は昭和三十三年の修理から六十年を経過していた。保存状態は比較的良かったが、今回毎年申請していた国の補助も得られたので、氏子の寄付も合わせて事業実施に踏み切り七ヶ月で平成二十九年十一月に完成した。

施工には重要文化財修理指針に基づき耐震診断・土壌防蟻処理等を選定保存技術の保持団体に所属する技能者を当て実施した。

神社本庁表彰式　功労者を顕彰

神社本庁表彰式が五月二十三日池田厚子神社本庁総裁御臨席のもと、東京の明治記念館で行われた。

奉仕神社の施設経営に尽力した功労者、敬神の念が篤く多年神社の経営に協力した功労者として、神職・役員・総代等二百七十六名が晴れの栄に浴した。

本県では次の六名が栄誉を受けた。

平成二十九年度功績表彰

表彰規程第三条第二号　表彰状

穂高神社宮司　穂高　光雄

若一王子神社宮司　竹内　直彦

南方富神社宮司　堀内　静夫

表彰規程第三条第三号　表彰状

深志神社役員　武居喜美雄

穂高神社役員　小河　深美

清水神社総代　田中　健

寄附者顕彰　平成二十九年十一月～

長野県神社庁長感謝状　三十五万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
更埴支部	伊勢社	千曲市	市川栄一
更埴支部	須須岐水神社	千曲市	石坂　東
更級支部	治田神社	千曲市	若林利夫　みつ子

辞令

平成二十九年十一月～

神社名	本兼職務	氏名	月日	支部名
昇級・神職身分一級				
諏訪神社	宮司	井出　舜	三・一	南佐久
御嶽神社	宮司	滝　和人	三・一	木曽
昇級・神職身分二級上				
熊野皇大神社	宮司	水澤　光男	三・十	北佐久
酒玉神社	宮司	竹内　忠男	三・十	更埴
小菅神社	宮司	鷲尾　隆男	三・十	飯水
湯福神社	宮司	齋藤　安彦	三・十	長野
任命				
樋知大神社	本宮司	市川　英正	十二・十五	更級
正大岡神社	兼宮司	市川　英正	十二・十五	更級
素戔嗚尊神社	兼宮司	市川　英正	十二・十五	更級
大代保神社	兼宮司	市川　英正	十二・十五	更級
長大岡神社	兼宮司	市川　英正	十二・十五	更級
鹿島神社	兼宮司	市川　英正	十二・十五	更級
秋葉神社	兼宮司	市川　英正	十二・十五	更級
金毘羅神社	兼宮司	名取　人利	一・一	諏訪
天神社	兼宮司	名取　人利	一・一	諏訪
八幡神社	兼宮司	名取　人利	一・一	諏訪
大山祇神社	兼宮司	名取　人利	一・一	諏訪
三社明神社	兼宮司	名取　人利	一・一	諏訪
諏訪神社	兼宮司	名取　人利	一・一	諏訪
大山祇社	兼宮司	名取　人利	一・一	諏訪
市場神社	兼宮司	下平　博	一・一	飯伊
宇佐八幡宮	兼宮司	下平　博	一・一	飯伊

野々宮社	兼	宮司	下平　博	一・一
大碩神社	兼	宮司	下平　博	一・一
松平神社	兼	宮司	下平　博	一・一
幣川神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
湯人神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
軻良根古神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
更級横田神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
諏訪神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
諏訪神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
二ツ柳神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
篠井神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
中山誉神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
頤気神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
涌井神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
清水神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
今井神社	兼	宮司	竹内　伸吾	一・二十
長田神社	兼	宮司	湯本　正通	二・十五
南宮神社（神奈川県　熊野神社より）	本	宮司	越取　寛昭	四・一
旗挙八幡宮	兼	宮司	越取　寛昭	四・一
八幡宮	兼	宮司	越取　寛昭	四・一
杢内鎮神社（千葉県　清瀧神社より）	本	禰宜	水野　亮	四・一
八王子神社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
八幡社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
白山社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
冨士浅間神社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
八幡宮	兼	宮司	大平　英文	四・十五
野池社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
熊野社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
諏訪社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
山神社伊雑皇社天伯社合殿	兼	宮司	大平　英文	四・十五
川原澤社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
大山祀社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
久堅神社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
金毘羅社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
諏訪社	兼	宮司	大平　英文	四・十五
大島神社	兼	宮司	酒井　克元	四・十五
八幡大神社	兼	宮司	酒井　克元	四・十五
三竜神社	兼	宮司	辻　明紀	四・十五
戸谷神社	兼	宮司	辻　明紀	四・十五
中社五斎神社	兼	宮司	大杉　明彦	五・一
大和合神社	兼	宮司	上條　哲哉	六・二
宮原神社	兼	宮司	上條　哲哉	六・二
諏訪神社	兼	宮司	上條　哲哉	六・二
諏訪神社	兼	宮司	上條　哲哉	六・二

昇任

葦原神社	宮司		下平　博	一・一
可毛羽神社	宮司		竹内　伸吾	一・二十
和世田社	宮司		大平　英文	四・十五
大洲七椙神社	宮司		酒井　克元	四・十五

本務替

樋知大神社（熊野神社より）	宮司		市川　英正	十二・十五

新任

王目神社	権禰宜		傳田　領輔	三・一
諏訪大社	権禰宜		宮澤　幸也	四・一
南宮神社	禰宜		越取　華子	四・一
大原社	宮司		神原　和希	六・一

辞職

正大岡神社	兼	宮司	市川　豊樹	十二・十四
素戔嗚尊神社	兼	宮司	市川　豊樹	十二・十四
大代保神社	兼	宮司	市川　豊樹	十二・十四
長大岡神社	兼	宮司	市川　豊樹	十二・十四
鹿島神社	兼	宮司	市川　豊樹	十二・十四
秋葉神社	兼	宮司	市川　豊樹	十二・十四
市場神社	兼	宮司	野神　善造	十二・三十一
宇佐八幡宮	兼	宮司	野神　善造	十二・三十一
野々宮社	兼	宮司	野神　善造	十二・三十一
大碩神社	兼	宮司	野神　善造	十二・三十一
松平神社	兼	宮司	野神　善造	十二・三十一
幣川神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
湯人神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
軻良根古神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
更級横田神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
諏訪神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
諏訪神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
二ツ柳神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
篠井神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
中山誉神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
頤気神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
涌井神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
清水神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
今井神社	兼	宮司	竹内　盛長	一・十九
南宮神社	兼	宮司	滝　和人	三・三十一
旗挙八幡宮	兼	宮司	滝　和人	三・三十一
八幡宮	兼	宮司	滝　和人	三・三十一
大島神社	兼	宮司	宮澤　逸央	四・十四
八幡大神社	兼	宮司	宮澤　逸央	四・十四
大和合神社	兼	宮司	村上　典孝	四・三十
宮原神社	兼	宮司	村上　典孝	四・三十
諏訪神社	兼	宮司	村上　典孝	四・三十
諏訪神社	兼	宮司	村上　典孝	四・三十

退職

金毘羅神社	宮司		三井　昭平	十一・九
樋知大神社	宮司		市川　豊樹	十二・十四
可毛羽神社	宮司		竹内　盛長	一・十九
白山神社	禰宜		村山　徹	一・三十一
白山神社	権禰宜		村山　有絵	一・三十一
御嶽神社	権禰宜		田中真知子	三・三十一
大洲七椙神社	宮司		宮澤　逸夫	四・十四
戸隠神社	権禰宜		二澤　正幸	四・三十
諏訪社	禰宜		猿谷　晨海	五・三十一

帰幽　謹んで御霊の安らかなることをお祈りいたします

奉務神社　職名	階位・身分	氏名	帰幽日	支部名
冨士浅間神社祢宜	権正階・三級	牟禮　照子	十二・三	松塩筑
長田神社宮司	正階・二級上	湯本　篤	一・六	上高井
諏訪社名誉宮司	正階・二級上	保尊貴佐夫	三・五	南安曇
中社五斎神社宮司	明階・二級上	神原　博文	三・十四	上水内
安國神社祢宜	正階・二級	長坂　りん	五・十五	下高井

神社庁職員人事異動

退職

公仕　三・三十一　徳武　律子

平成30年度長野県神社庁歳入歳出予算書

歳入の部　（単位：円）

款	科目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	幣帛幣饌料	750,000	750,000	0	神社本庁より
2	交付金	100,138,000	100,368,000	△230,000	本庁交付金
3	負担金	34,100,000	32,480,000	1,620,000	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協賛金	6,220,000	6,220,000	0	特別協賛金、寄付金
5	財産収入	500,000	500,000	0	財産利子配当金
6	補助金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各種証明料	2,920,000	2,920,000	0	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸収入	2,500,000	2,500,000	0	賽物収入、雑収入
9	管理費収入	700,000	700,000	0	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過年度収入	200,000	200,000	0	
11	繰入金	2,000,000	0	2,000,000	新庁舎建設予備資金庁舎管理運営特別資金より繰入
12	繰越金	8,852,000	13,242,000	△4,390,000	
	合計	159,000,000	160,000,000	△1,000,000	

歳出の部　（単位：円）

款	費目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	47,391,842	47,468,376	△76,534	支部を通じて各神社へ
2	幣帛幣饌料	8,700,000	8,500,000	200,000	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会議費	4,500,000	4,500,000	0	会議旅費、諸費
4	庁務費	42,220,000	46,782,000	△4,562,000	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負担金	25,619,160	25,646,920	△27,760	神社本庁へ
6	事業費	16,900,000	18,566,000	△1,666,000	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研修諸費	200,000	200,000	0	神社庁研修諸費
8	庁舎維持費	660,000	660,000	0	修繕費、設備費、火災保険費
9	交付金	3,400,000	3,400,000	0	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積立金	3,500,000	3,500,000	0	基本金積立金、役職員退職積立金、五県連合総会積立金、神道昂揚資金積立金等
11	補助金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	新庁舎建設調査費	2,000,000	0	2,000,000	新庁舎建設特別委員会　会議費・調査諸費等
13	予備費	3,858,998	726,704	3,132,294	
	合計	159,000,000	160,000,000	△1,000,000	

平成30年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出予算書

歳入の部　（単位：円）

	科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	負担金	3,345,000	3,370,000	△ 25,000	支部負担金、神職掛金
2	災害救助慰藉特別会計交付金	700,000	700,000	0	神社庁、総代会
3	本庁見舞金	150,000	150,000	0	
4	雑収入	1,000	1,000	0	雑収入
5	繰越金	5,804,000	5,779,000	25,000	
	合計	10,000,000	10,000,000	0	

歳出の部　（単位：円）

	費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	災害慰藉費	3,685,000	3,685,000	0	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神職掛金	2,145,000	2,170,000	△ 25,000	神職掛金積立金
3	本庁災害慰藉費	300,000	300,000	0	災害対策資金
4	運営費	60,000	60,000	0	事務費、旅費、雑費
5	予備費	3,810,000	3,785,000	25,000	事務費、旅費、雑費
	合計	10,000,000	10,000,000	0	

暑中見舞

諏訪大社

上田市下之郷中池西七〇一
生島足島神社
宮司　宮川清彦
氏子総代表　依田延嘉
職員総代一同

戸隠神社
名誉宮司　藤井茂信
宮司　水野邦樹
他　職員一同

穂高神社
名誉宮司　小平弘起
宮司　穂高光雄
職員一同

松本市美須々六番一号
長野縣護國神社
宮司　奥谷一文
他　職員一同

松本市
四柱神社
宮司　宮坂信廣
他　職員一同
http://www.go.tvm.ne.jp/~yohashira

深志神社
宮司　遠藤久芳
他　職員一同

諏訪市茶臼山鎮座
手長神社
宮司　宮坂清

武水別神社
宮司　堀内潔人
他　職員一同

若一王子神社
宮司　竹内直彦
大町市大字大町二〇九七

木曽総社
御嶽神社
宮司　武居哲也

木曽御嶽王滝
御嶽神社
名誉宮司　滝重則
宮司　滝和人

軽井沢町峠鎮座
熊野皇大神社
宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　土屋一人

飯田市浜井町
破魔射場鎮座
冨士山稲荷神社
宮司　市原貴美雄
職員総代一同

佐久総社
新海三社神社
宮司　井出行則
総代長　丸山勝雄
佐久市田口鎮座

軽井沢町旧軽井沢鎮座
諏訪神社
宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　大谷次司

軽井沢町中軽井沢鎮座
延喜式内社
長倉神社
宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　土屋斉司

上田市常田鎮座
総社大宮
科野大宮社
宮司　今井正昭
総代会長　伊藤一夫

上田市中央北鎮座
眞田三代崇敬社
大星神社
宮司　関口守和
祢宜　工藤康高
総代長　山口好美

飯山市小菅の里鎮座
小菅神社
宮司　鷲尾隆男
総代会長　吉原一男

暑中見舞

上伊那郡辰野町
三輪神社
宮司　矢島正稔

上伊那郡飯島町
梅戸神社
宮司　今井泰
祢宜　茅野理也
権祢宜　今井佑

上伊那郡辰野町小野
矢彦神社
宮司　立澤寿江
祢宜　立澤俊輔
総代会長　小野光好

大御食神社
宮司　富岡武彦
祢宜　白鳥俊明
権祢宜　白鳥操子
総代会長　富岡清彦　赤須弘侑

上伊那郡箕輪町三日町
御射山三社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　小林幸雄

木曽郡木曽町福島鎮座
水無神社
宮司　宮田利彦
祢宜　宮田伊織

国選定重要建造物群宿場街
中山道奈良井宿
鎮座
鎮神社
宮司　巣山清人
総代会長　篠原幸延

あづみ野
住吉神社
宮司　飯田泰之
氏子総代会長　丸山富生

松本市梓川梓鎮座
大宮熱田神社
宮司　山田充春

上水内郡小川村小根山鎮座
小川神社
宮司　宮下俊樹
祢宜　太田陽一
総代長　西沢哲朗

七二会鎮座
式内社
守田神社
宮司　矢澤龍一
主任総代　酒井健次
会計　吉澤博樹

木曽郡木曽町開田高原西野
八幡宮
宮司　神田肇
祢宜　毛利ゆき乃

長野市箱清水鎮座
湯福神社
宮司　齋藤安彦
祢宜　齋藤英之
権祢宜　齋藤友加里

長野市東町鎮座
武井神社
宮司　齋藤吉睦

長野市松代町鎮座
象山神社
宮司　瀧澤基
祢宜　瀧澤けい子
権祢宜　瀧澤理恵

岡谷市小井川鎮座
小井川賀茂神社
宮司　有賀寛典

飯田市八幡町一九九九
鳩ヶ嶺八幡宮
（重要文化財誉田別尊神像）
宮司　伊原義雄
総代会長　中島完司

国宝
仁科神明宮
大町市社宮本
宮司　松井秀吾
総代会長　清水邦弘

伊那市荒井区
荒井神社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　小池先夫

長野市岩石町鎮座
えびすの神
西宮神社
宮司　丸山肇
役員総代一同

暑中見舞

安曇野市穂高有明字宮城
彫刻で名高き裕明門
有明山神社
宮司　山崎佳宏

箕輪南宮神社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　岡　修司
箕輪町大字中箕輪木下一二五〇〇

塩尻市中西條鎮座
三嶽神社
宮司　宇治橋牧子
祢宜　宇治橋克彦
権祢宜　宇治橋邦彦

塩尻市北小野鎮座
小野神社
宮司　宇治橋淳
祢宜　宇治橋邦彦
総代会長　宮崎敏孝

松本市村井町
神明宮
宮司　永持はな子
祢宜　宇治橋邦彦
権祢宜　小穴真希

伊那市御園区鎮座
白山社
宮司　伊藤光宣

長野市三輪鎮座
美和神社
宮司　齋藤吉睦
権祢宜　矢澤龍一

駒ヶ根市赤穂鎮座
大宮五十鈴神社
宮司　白鳥俊明
祢宜　白鳥操子
http://isuzu.jinja.jp/

長野市大町鎮座
長沼神社
宮司　長沼忠行
祢宜　長沼房子
権祢宜　長沼誠一

上伊那郡南箕輪村
殿村八幡宮
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　松崎顕

長野市松代町皆神山
熊野出速雄神社
（皆神神社）
宮司　武藤美登

奥州一之宮鹽竈神社御分社
鹽竈神社
宮司　大澤明三
祢宜　大澤節子
総代会長　青木三治

安曇野市豊科南穂高
洲波神社
宮司　宮澤佳廣

飯山市五束鎮座
（国重文若宮八幡社）
健御名方富命彦神別神社
宮司　髙橋勸
祢宜　髙橋穣
権祢宜　髙橋晶
総代会長　小野澤春海

佐久市臼田鎮座
稲荷神社
宮司　伴野健一
総代会長　久義重

五宮神社
宮司　髙橋邦衛

国選定重要建造物群漆職人街
木曽平沢鎮座
諏訪神社
宮司　巣山清人
総代会長　石本則男

東筑摩郡筑北村坂北鎮座
無形文化財お田植祭り
刈谷澤神明宮
宮司　山崎洋文
総代会長　神田林政穂

佐久市鎮座
平賀神社
宮司　小間澤肇
祢宜　小間澤貴子
総代会長　髙橋登

長野市戸隠鎮座
矢本八幡宮
宮司　宮川和工
祢宜　宮川英士
主任総代　羽田静男

総代・一般向け明治維新関連書籍のご紹介

①「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズⅡ
永遠の維新者―西郷隆盛評伝―

葦津珍彦　著　葦津事務所　刊
本体　二、〇〇〇円（税別）

今なお多くの人に愛され、多くの勤皇の志士たちとともに日本の近代化の鍵となった西郷隆盛。西郷が肝要とした日本人の精神を見失ってはならないことを、現代人に戒める一冊。

②明治憲法の制定史話
～明治維新150年記念出版

葦津珍彦　著　神社新報社　刊
本体　一、〇〇〇円（税別）

朝野の先人が奔走しながら制定にこぎつけた大日本帝国憲法。「公議公論」の結晶として欽定された大憲章の制定過程を明らかにする。

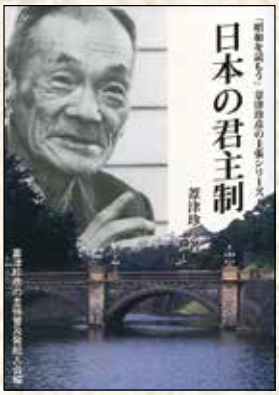
③大日本帝国憲法制定史

※「明治憲法の制定史話」が同梱されてます
明治神宮　編　神社新報社　刊
本体　一六、〇〇〇円（税別）

明治維新の大業の法的総括となった制定史を振り返り、将来の憲法問題を考えるために明治憲法の本格的な研究に欠かせず、現行憲法との対比においても必読の一書。

④「昭和を読もう」葦津珍彦の主張シリーズⅠ
日本の君主制

葦津珍彦　著　葦津事務所　刊
本体　二、〇〇〇円（税別）



日本人が歴史を重ねて熟成してきた世界に誇る個性とは。昭和の神道人葦津珍彦が力を込めて書き残した文章には、我々が見落としている貴重なものが含まれている。動き始めた現代社会、その進むべき方向をしっかり見定めるために、参考となる一書。

ご注文は…

神社関係の新聞社 神社新報社 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-1-2　電話03-3379-8212　FAX03-3379-8213

送料400円／5,000円以上で送料無料
インターネットでの注文は…神社神報社直営店BOOKS 鎮守の杜

BOOKS 鎮守の杜　「鎮守の杜」で検索！
http://books.jinja.co.jp/

「探しています」『神州』バックナンバー

右記の庁報のバックナンバーを探しています。
お持ちの方は神社庁内庁報編集委員会までご連絡下さい。

記

○第１号（昭和29年発行）　○第２号（昭和29年発行）
○第３号（昭和30年発行）　○第49号（昭和54年発行）
○第53号（昭和56年発行）